

JCS/TAWC 受賞者の学会参加報告(AHA2020/ESC2020)

産休・育休後の AHA WEB 参加の報告

聖路加国際病院心血管センター循環器内科 しい な ゆ み 椎名由美

この度は第9回 Travel award for Women Cardiologist (JCS/TAWC) を受賞させていただき、誠にありがとうございます。

今回は COVID-19の影響で渡米することができず、WEB 参加となりました。育休後に現場復帰し日が浅い状況で、長時間のフライトに耐え子供を連れて現地に行くことも困難でしたので、国際学会に WEB 参加できることは大変ありがたく、乳幼児を育てながらの女性医師にもアカデミックな分野での活躍の場が提供されることになります。

今回の発表は私の専門分野の1つである成人先天性心疾患における画像診断の研究発表でした。1つは 4D flow MRI を用いた研究「Aortic Vorticity, Helicity and Aortopathy in Adult Patients With Tetralogy of Fallot: Preliminary Study Using Four-dimensional Flow Magnetic Resonance Images」であり、代表的な先天性心疾患ファロー四徴症の遠隔期合併症の1つである Aortopathy に及ぼす血行動態学的な影響を MRI を用いて評価するというものです。大動脈二尖弁をはじめとし、多くの円錐動脈幹疾患において先天的な上行大動脈の組織学的な脆弱性が問題ですが、この Aortopathy をさらに加速する要素の1つとして「異常血流 (vorticity 渦流, helicity 螺旋流)」の形成が挙げられます。ファロー四徴症をはじめとする円錐動脈幹心疾患は、心内修復術の際に人工物パッチなどを用いて無理やり re-routing するわけなので遠隔期に異常血流を生じやすく、異常血流が大動脈壁を刺激することで TGF β cascade などが活性化され、より Aortop-

athy を増悪させる可能性があります。これは「鶏と卵」の関係でもあり、異常血流を形成すると大動脈が拡張しますし、大動脈が拡張してくるとさらに異常血流を生じやすくなります。4D flow MRI はここ数年で急激に研究が進んでおり、今後の臨床的な応用が期待される分野です。

もう1つの研究発表は単心室フォンタン循環におけるサルコペニアについて CT を用いた検討「Secondary Sarcopenia Assessed by Computed Tomography Can Predict Hospitalization for Heart Failure in Adults With Fontan Circulation」になります。単心室フォンタン循環において下肢の筋ポンプは心拍出量を保つには重要であり、「重要な臓器」の1つです。20、30代の若年者の単心室フォンタン患者にもサルコペニアは多く、この疾患群においてどのように運動を推進していくかは今後の課題です。

成人先天性心疾患は新しい分野であり、私が勉強し始めた2007年当時は国内で小児循環器医の分野でした。欧米では1980年代から学問として発展しており、多くの女性の循環器内科医/心臓血管外科医が国際的に活躍する珍しい分野であり、日本でもようやく専門医制度が始まったところです。ここまで漕ぎつけるには多くの小児循環器医の多大なるサポートがあります。成人先天性心疾患診療の第一人者である小児循環器科医の丹羽公一郎先生が、多くの循環器内科医を日々教育し、専門家として全国に送り出していることは周知のこととは存じますが、大変深く感謝申し上げます。

また2013年に私が留学先から帰国後に、国内で

成人先天性心疾患の画像診断の研修・研究ができないことを相談した際に、快く機会を提供してくださった東京女子医大循環器小児科准教授の稲井慶先生、画像診断科（放射線科）の准教授の長尾充展先生には、病院や科の違いを超えての懐の広さに大変感謝申し上げます。

当院の心血管センターは今まで女性医師の常勤スタッフはおらず私が紅一点、妊娠出産も初でありました。産休・育休に入った当時は、大学病院でいういわゆる「チューベン」の立場でしたので、ワンオペ育児のフルタイム勤務が可能か、が問題でした。復帰直前にいわゆる「オーベン」昇進後の復帰としてくださったおかげで最も大変な時期を何とか乗り切ることができ、心血管センター長・循環器内科部長の小宮山伸之先生には深く御礼申し上げます。また子供の急な発熱などで

抜けなければならない際に常にサポート・カバーしてくださる成人先天性心疾患診療チームの木島康文先生、児玉浩幸先生にも深く感謝申し上げます。夜間休日の日当直を組む際に、常に子供の保育の手配などを配慮してくださった西畑庸介先生、宮田宏太郎をはじめ、心血管センターの皆さまにも御礼申し上げます。同僚の女性医師の業務カバーは「水面下の個人の親切」で終わってしまいますので、今回あえて全国の多くの循環器専門医が目を通す雑誌に述べることにしました。今後の若い女性医師たちがより働きやすい環境になればよいと思います。

著者の COI (conflicts of interest) 開示：本論文発表内容に関連して特に申告なし

*

*

*